論　説

日本獣医師会雑誌　通巻900号　発刊記念連載特別企画

―各分野で活躍する獣医師のさらなる飛躍に向けて（X）―

大学間連携による獣医学教育改善と獣医学生の就職動向

苅和宏明†（日本獣医師会獣医学術学会誌編集委員会副委員長，
北海道大学大学院獣医学研究院教授）

1　は　じ　め　に

わが国における欧米と同等レベルの獣医学教育実現に向けての改善の動きは，50年以上前から継続している．その間の経緯は，本誌通巻900号発刊記念連載特別企画において，堀内基広先生［75，40-43（2022）］，丸山総一先生［75，134-136（2022）］，三角一浩先生［75，170-172（2022）］の論説にも記載されている．2000年頃までの獣医学教育の改革運動は大学間の獣医学教育組織の統合によって，欧米と同規模の教員組織の実現を目指すものであったが，この方向の改革は残念ながら十分な成果を上げることができなかった．2008年に文部科学省に「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議（第1期）」が設立され，2011年に「今後の獣医学教育の改善・充実方策に関する意見のまとめ」が公表された．この中の5つの改善の具体的方策の一つとして「大学間連携による教育研究体制の充実」が提示されたことにより，2012年に山口大学・鹿児島大学共同獣医学部，岩手大学・東京農工大学共同獣医学科，北海道大学・帯広畜産大学共同獣医学課程，2013年に岐阜大学・鳥取大学共同獣医学科が設置された．これにより，大学間の連携により，獣医学教育の改善が図られるようになった．2019年12月には，山口大学・鹿児島大学共同獣医学部（VetJapan South，VJS）と北海道大学・帯広畜産大学共同獣医学課程（VetNorth Japan，VNJ）が欧州獣医学教育機関協会（European Association of Establishments for Veterinary Education，EAEVE）から認証を取得している．こうした最近の獣医学教育の改善における教育体制側の変化に対して，獣医学生はどのように反応しているのであろうか．獣医学教育を修了して，学生側が自分の将来を決める就職先はどのように変化したのであろうか．本稿では，VNJにおける獣医学教育の改善の試みと最近の北海道大学獣医学部共同獣医学課程の学生の就職状況について紹介し，今後の獣医学教育の改善の方向性について考えてみたい．

2　北海道大学・帯広畜産大学共同獣医学課程（Vet-North Japan，VNJ）における獣医学教育改善の試み

北海道大学・帯広畜産大学共同獣医学課程（Vet-North Japan，VNJ）と山口大学・鹿児島大学共同獣医学部（VetJapan South，VJS）は，2012年に設立され，国立大学改革強化推進補助時事業「国立獣医系4大学群による欧米水準の獣医学教育実施に向けた連携体制の構築」（2012～2017年）の支援を受けて教育連携体制の整備がすすめられた．主な教育改善項目は，伴侶動物及び生産動物の実習の大幅な単位増加（臨床総合実習，いわゆるポリクリの充実），連携等による教員の増員，教育施設の充実，学生の意見を組織運営に生かす体制の構築，教育改善を進める体制の構築（質保証の担保）などがあげられる．

私は図らずもVNJにおいてEAEVE認証取得の過程に携わることとなったため，本稿では以後VNJにおける獣医学教育改善と認証取得にまつわる出来事について，記述することとする．EAEVE認証を獣医学教育改革の一つの指標とすることを決定した後，2019年に認証を取得するまで，認証取得に必要となるカリキュラム改革や，組織的な改革，施設整備，遠隔授業に関わるシステムの構築など，数年の間に多くの項目を同時並行的に改善していく必要があった．EAEVE認証の取得は，あくまでも獣医学教育改善の成果を欧州の第三者機関に評価してもらうためのイベントであり，認証取得そのものが目標ではないのだが，認証取得に必要な各種項目の

†　連絡責任者：苅和宏明（北海道大学大学院獣医学研究院衛生学分野公衆衛生学教室）
〒060-0818　札幌市北区北18条西9丁目　☎011-706-5211　FAX 011-706-5213
E-mail : kariwa@vetmed.hokudai.ac.jp

具体的な数値が定量的に表されているため，どの項目をどのくらい改善しなければならないかという一つ一つの目標が明確であった．具体的な目標をクリアするための労力がある程度把握できるのは効率を上げるためには大変有効であり，EAEVE の認証を目指したのは教育改善を進める上では非常に良い方法であったと考えられる．

認証取得を目指す過程では，上記の教育改善に加え，EAEVE に提出する自己評価書（Self Evaluation Report，SER）の作成に多くの労力をつぎ込まなければならなかった．認証取得までの過程で，事前審査（Consultative visitation）と本審査（Full visitation）の２つの訪問審査があるが，これらの審査の前にそれぞれ SER を EAEVE に送付する必要があった．正直なところ，SER を執筆することにより改善の不備に気づき，さらに改善を加えるという場面も多々あった．VNJ は 2019 年７月に受けた本審査の後，2019 年 12 月に正式に EAEVE の認証取得が決まったが，いくつかの Minor deficiencies が指摘された．その中で，食肉衛生に関わる体験型現地実習の少なさがあげられた．これについてはまた後述したい．

認証取得後も組織的に教育改善を行っていく必要がある．学内の質保証委員会では，学生や教職員へのアンケート結果などをもとに教育改善の方向性について共同教育課程の課程長などに提言を継続的に行っている．学生へのアンケートは卒業時のアンケートのような教育全般的なものばかりでなく，オンライン教育に対するアンケートなど個別なことについても頻繁に取られており，教育改善に生かされている．卒業時アンケートでは，もっと研究を行いたいという意見も一部みられるものの，伴侶動物や生産動物臨床の現場を体験できたことを評価する意見が多く，共同教育や EAEVE 認証取得については全般的に肯定的な意見が多くを占めている．教員へのアンケート結果からは，認証取得時における教員の負担や研究に費やす時間が減少するなどの不満はあるものの，認証取得の過程で獣医学教育の改善が実際に行われたことについては肯定的に評価する声が多かった．現在，教育改善の活動は，一部の教員だけでなくさまざまな委員会の活動の一環として多くの教員が分担して担う形態に変化しつつある．

3　日本の獣医師の就業状況と北大獣医学部卒業生の就職状況

令和２年 12 月 31 日現在の農林水産省の集計をもとに，現在の獣医師の就業状況について各分野の比率を示したのが図１である．就業の分野については，この後の北大獣医学部共同教育課程の卒業生の就職先と比較する関係上，農林水産省の分類区分を若干変更させていただいた．

届け出のあった総数は 40,251 名であるが，このうち，

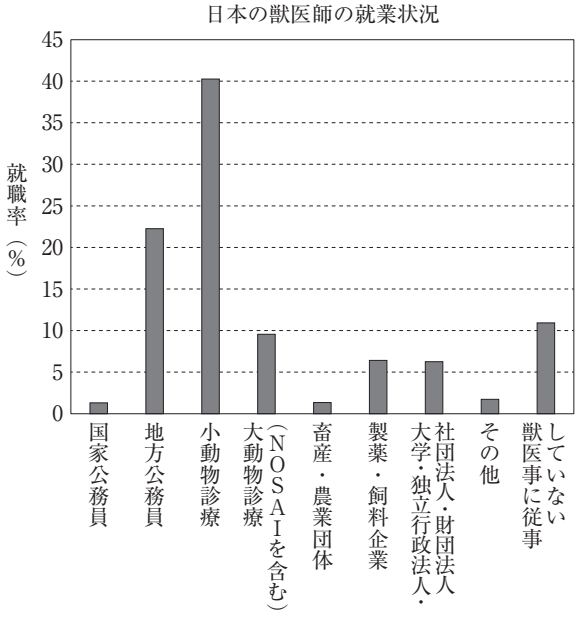

図１　農林水産省の集計による日本の獣医師の就業状況
令和２年 12 月 31 日現在の届け出による集計

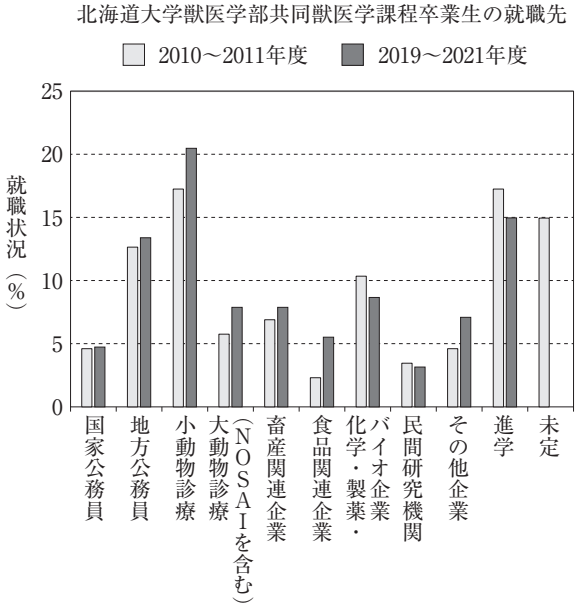

図２　北海道大学獣医学部共同獣医学課程卒業生の就職先
共同獣医学課程実施前の卒業生（2010～2011 年度）
と共同獣医学課程の卒業生（2019～2021 年度）の比較

国家公務員と地方公務員を合計した公務員が 24％弱，小動物診療約 40％，大動物診療が 10％弱，畜産・農業団体，企業，大学や独立行政法人などの合計が約 15％弱，未就業が約 11％を占めている．

これに対して，北大獣医学部において共同獣医学課程実施前の卒業生（2010～2011 年度）と共同教育課程の卒業生（2019～2021 年度）の就職先を示したのが図２である．公務員は共同教育課程の実施前も実施後もほぼ 17％で変化なし，小動物臨床は実施前が 17％から実施

後 20%に微増，大動物臨床は 6%弱から 8%弱に微増，畜産関連企業がほぼ7%で変化なし，食品関連企業が2%から 5%へと微増，進学が 17%から 15%にやや減少となっている．2010 年の卒業生に就職先未定の学生が極端に多かったため，2010～2011 年度の卒業生の各分野の就職先の比率が低めに出ている可能性はあるかもしれない．共同獣医学教育の実施前と後で各分野への就職比率がほとんど変わっていないのは正直驚きであった．日本の獣医師の就業状況と北大の卒業生の就職先を見比べてみると，北大の卒業生は進学や企業のへの就職の比率が高く，小動物臨床への就職の比率が低いという傾向は確かにある．しかし，公務員や大動物診療への就職の比率は，日本の獣医師全体におけるの公務員と大動物診療獣医師の比率と比べ，大きな開きはない．

4　今後の獣医学教育の改善の方向性

北大獣医学部共同獣医学課程は 1 学年がわずか 40 人程度であり，就職状況を年度で比較するのは十分に注意すべきであろう．それを考慮した上でも，共同獣医学課程の導入前と後で就職先の比率にほとんど変化がなかったのは，何か理由があるように思われる．ここからは推測の域を出ないが，私はその原因をおもに学生の側にあると考えている．最近の獣医学生は，勉学上大変優秀であるのはもちろん，卒業後の自分の将来についてかなりよく考えている．就職先を決めるにあたっては，学生本人の興味がやはり一番重要な要素であると考えられるが，獣医学を修めた者として自分がどの分野でもっとも将来活躍できるかについても熟考の上就職先を選んでいるのであろう．教育体制の変化に伴って就職先がそれほど大きく変化しないのは，獣医学生の就職先の動向を冷静に見据えているからだと思われる．学生達は新卒一括採用の好機を逃すとその後の人生に極端な不利益が発生することも良く理解しており，無難な選択をするということも考えられる．学生の興味の対象は案外一定の比率で分布するのかもしれず，年度や教育体制によって大きく変動することはないのかもしれない．

VNJ が取り組んだ獣医学教育改革は，小動物や大動物の臨床実習を大幅に充実させるものであり，私が学生時代には想像することもできなかったような臨床教育を学生に提供している．現時点で，学生の就職状況が大きく変わらなかったとしても，卒業後に獣医師としてのキャリアアップの機会や，別のキャリアに踏み出す際の下地の経験を学生時代に提供しているという点でも，意味のあることだと思っている．

これからの時代はこれまでにも増して獣医師は生涯学習につとめなければならない時代に入っている．そういう意味でも獣医学の多方面の領域を在学中にしっかりと学ぶ必要がある．VNJ の EAEVE 認証の取得の際に，食肉衛生などの現地実習の機会が少ないことについて指摘を受けた点については前述したとおりである．公衆衛生分野の体験型の現地実習の強化については，大学の努力だけでは到底実現はかなわないことはもちろんである．獣医師会の関係者の皆さまや関係機関とも連携を密にしながら，具体的な教育改善の方法について協議を進めることができればと考えている．獣医師会の皆さまのご理解とご協力を切に願う次第である．

5　お　わ　り　に

EAEVE 認証取得を一つの目標としながら取り組んできた VNJ の共同獣医学教育であるが，今も教育改善を継続させつつ認証の継続に向けて進んでいる．今後は，公衆衛生分野の体験型現地実習の充実を図ることが肝要である．このことにより，今後公衆衛生分野や家畜衛生分野の公務員となる獣医師の資質の向上が期待される．欧米では獣医臨床と公衆衛生の実地教育を学生時代に十分に積んだ獣医師が公衆衛生分野の獣医師として活躍している．日本においてもそうした教育を受けた獣医師が公衆衛生分野や家畜衛生分野で国政的に活躍してくれることを願っている．

獣医学教育で臨床教育と公衆衛生教育を強化することにより，獣医師としての社会とのつながりを強く意識することで，大学院に進学した際にはより社会に貢献できるような研究課題を見いだす力をつけてくれるのではないかと期待している．いったん社会に出てから再度大学院に入りなおす学生や社会人大学院生として大学院に在学する学生のためにも，大学院教育も疎かにはできないと考えている．